

理工系学部・大学院創立 100 周年を迎えて

工学研究院長 梅澤 修



2020 年からの世界的な新型コロナウイルス感染拡大は収まりをみせず、先行き不透明な状況が続いています。大学では、2021 年 4 月より対面授業が再開され、キャンパスには学生の姿が戻ってきました。学生たちの会話する姿は、多感で様々な刺激を受容する若者本来の生活と健康が一部なりとも回復し、貴重な青春の時間を取り戻すことにつながればと期待します。そのためにも、社会ルール遵守と感染拡大防止に留意しながら、学生生活の環境が確保されることを願います。

このように大学生活のありようが大きく変わりつつあるなか、2018 年 4 月 1 日に発足した理工学府の完成を無事迎えることができました。2021 年 4 月 1 日、横浜国立大学長には、工学研究院から梅原出教授が就任されました。そして、横浜国立大学理工系学部・大学院は、大正 9（1920）年にその前身である横浜高等工業学校として発足以来、創立 100 周年を迎え、新たな 100 年に向けた一歩を踏み出しました。このように、大きな節目を迎えたところですが、予定しておりました理工系創立 100 周年記念式典・講演会等の開催を 2021 年 11 月に延期し、記念誌の編纂と一部のキャンパス整備事業が進行しております。化学棟（旧物質工学科化学棟）の改修工事も完了し、隣接する「名教自然」碑の清掃、樹木の伐採・剪定、碑の周辺整備と併せ、40 年の時を刻んできた緑あふれる常盤台キャンパスも徐々に模様替えしております。

2021 年は、第 4 期中期目標・中期計画策定に向けて作業が進んでおります。学長メッセージに掲げられた、「知の統合型大学として世界水準の研究大学を目指す」を実現するべく、工学研究院・理工学府がその先頭に立って実践的研究の拠点へと一步一步前進してまいりたいと存じます。現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」、これら建学からの歴史の中で培われた 4 つの精神の実践を旨とし、令和における世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言するものです。

「知の創造」と「人材の育成」という大学の本質に変わりはないと信じ、今我々に課されていることに努め、予見される令和時代の「ものづくり」に対して中心的・先導的に貢献できる人材やイノベーションの創出を担う人材の育成につながるよう、「名教自然」の理念のもと培われた伝統を大切に、工学研究院・理工学府の教職員一同、努めてまいります。

2020-2021
Highlights

工学研究院／理工学府／理工学部